



邦楽の普及発展

さ とう けい じ
佐 藤 慶 治
(光山)
(82歳)

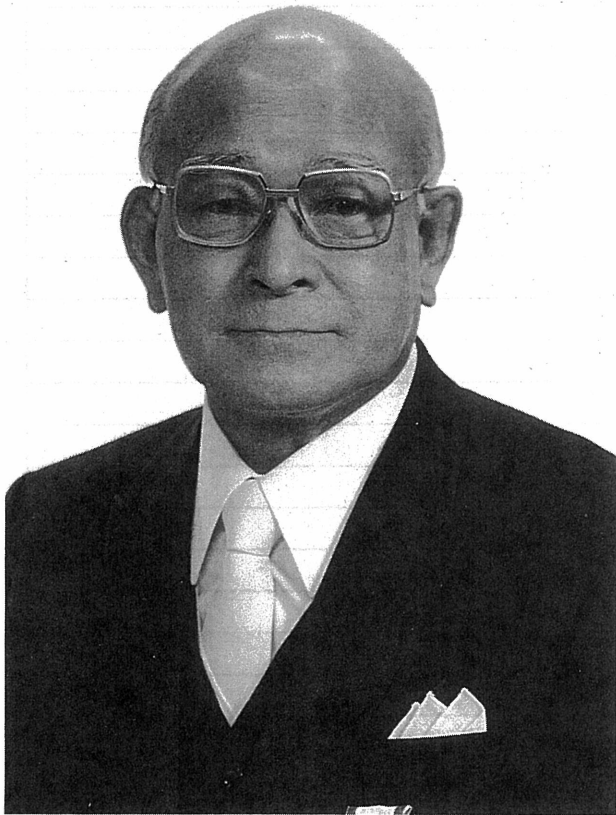
住所
秋田市

大正13年から都山流尺八の研鑽を積み、昭和52年に宗家より都山流最高位の竹琳軒大師範を授与されている。

昭和2年に伶風会を結成し、以来数多くの公開演奏会を開催するとともに後進の指導と育成に努め、本県都山流の基礎を築いた。

昭和42年には秋田県三曲連盟の設立に参画して、専務理事、副会長、会長を歴任し、各流派の連携をはかるなど本県邦楽の普及と発展に尽力した。

また、秋田県芸術文化協会などの役員として広く本県芸術文化の向上に貢献された。



木材産業の発展

みどり かわ だい じ ろう
縁 川 大 二 郎

(77歳)

住所
大館市

昭和22年に木材産業に身を投じ、以来一貫してその振興発展に努め、県産木材の需要拡大と木材産業の経営体質の改善に献身的な努力を重ねられ、不況により低迷していた木材業界の活性化をはかられた功績は高く評価されている。

また、昭和50年からは大館商工会議所会頭として商工業の発展のため尽力されるとともに、昭和59年には、日本林業協会副会長、全国中小企業団体総連合会副会長、全国木材組合連合会会長等に就任するなど広範にわたる活躍を続け、本県の産業経済界に大きく貢献している。



医学教育の振興発展

わた べ よし たね
渡 部 美 種

(69歳)

住所

秋田市

昭和46年に創立期の秋田大学医学部に赴任し、付属病院中央手術部長などを経て同55年医学部長に就任、大学医学教育の振興に精励されるとともに本県の医療技術の向上に寄与した。

昭和61年に、秋田大学学長に就任すると大学の整備拡充に全力を傾注し、医学部臨床検査医学講座の増設や情報処理センターを新設し、また、県民の待望であった医療技術短期大学の併設を実現したほか大学の研究と教育を積極的に地域社会に開放して県民の教育文化の向上に尽力するなど、本県の学術文化の向上に多大な貢献をしている。



電子工業の振興発展

こ ばやし ただ ひこ
小 林 忠 彦

(69歳)

住所

本荘市

昭和12年に東京電気化学工業株式会社（現TDK）に勤務し、フェライトの形成・加工技術を修得され、昭和27年にTDKの協力工場として独立した。

創意・工夫・開拓を信条とし、本県で立ち遅れていた金型製造技術の開発研究に尽力するとともにその開発した技術を積極的に地元企業に公開し、他企業の技術開発はもとより、県内工業界の技術向上に多大な影響を与え、本県地場産業の振興に大きく貢献している。



漆器工芸の普及発展

か とう ご へ え
加 藤 五 兵 衛

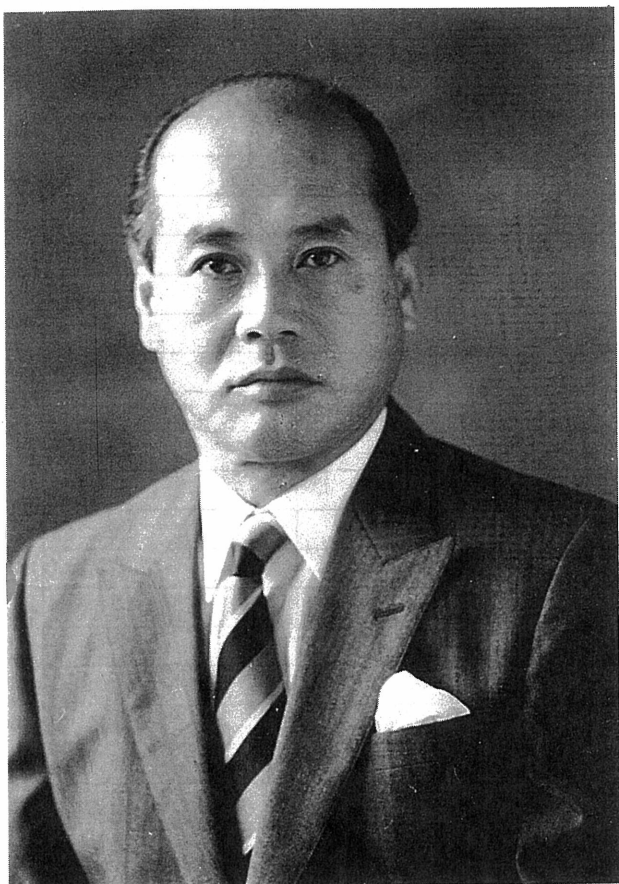
(64歳)

住所

雄勝郡稲川町

昭和27年から秋田県工業技術センター川連指導所に勤務し、川連漆器の製造技術の指導と後継者の育成に尽力されるとともに、漆器製造技術の改良に努め、昭和63年度全国漆器展における川連漆器の総合優勝に大きく寄与した。

また、卓越した技術により優れた漆器工芸品の製作活動を続け、日展では昭和28年から26回入選するなど、秋田県の漆器工芸の普及と発展に多大の貢献をしている。



オペラの普及発展

つき 築 じ 地 り さぶ ろう
利 三 郎

(60歳)

住所

大曲市

昭和32年に声楽研究団体「秋声会」を主宰し、昭和43年から聖霊女子短期大学で音楽教育の振興に精励されるとともに、昭和50年には、「秋田県民オペラ協会」の設立に参画して数多くのオペラの公演やコンサートの音楽監督をつとめ活躍している。

また、昭和59年から「第九交響曲を歌う会」の合唱の指導、指揮も続けているほか、各地の学校で音楽教室を開き200回を超える演奏を行い、多くの聴衆に感動を与えている。

さらに、平成元年には市制100周年記念オペラ「ねぶり流し物語」に出演したほか平成2年9月には還暦記念リサイタル「ドイツ名歌の夕べ」を開催するなど本県芸術文化の向上に多大な貢献をしている。